



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成22年(2010年)1月29日第41号

ひび割れの壺

インドのある水汲み人足は二つの壺を持っていました。天秤棒の両端にぶら下げ、首の後ろに棒を掛けて水をご主人様のところまで運ぶのです。一つの壺にはひびが入っており、ご主人様のところにつく頃には、水が半分になっています。もう一つは完璧な壺でした。

完璧な壺は、本来の目的を達成できる自分を誇りに思っていました。一方ひびわれの壺は自分がつくられた目的を半分しか果たすことができないため、自分を恥じていました。

二年が過ぎ、自分を惨めに感じているひび割れの壺は人足に言いました。「私は自分が恥ずかしい。そして、あなたにすまないと思っている。」人足は尋ねました。「何を恥じているの？」すると、「この二年間、私はこのひびのせいで、水を半分しか運べなかった。水が漏れてしまうから、あなたがどんなに努力しても、その努力が報われることがない。私はそれがつらいんだ。」と壺は言いました。水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そして言いました。「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いているきれいな花を見てごらん。」天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくとき、ひび割れ壺はお日様に照らされ美しく咲き誇る道端の花に気づきました。

花は本当に美しく、壺はちょっと元気になった気がしましたが、また水を半分漏らしてしまった自分を恥じて、水汲み人足に謝りました。すると彼は言いました。「道端の花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい？僕は君からこぼれ落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そして君は毎日、僕たちが小川から帰る途中水をまいてくれた。この二年間、僕はご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。君があるがままの君じゃなかったら、ご主人様はこの美しさで家を飾ることはできなかったんだよ。」

これは、菅原裕子さんの「子どもの心のコーチング～一人で考え、一人でできる子の育て方～」(PHP新書)の最後に紹介されていたものです。

私たち大人が子どもにすべきことは、そっと花の種を植えてやることなのかもしれません。どのような種をどのタイミングでまけばよいのか。自らの子育てをもう一度見直すよい機会をいただきました。(佐藤)



1月6日(水) 豊中市研究協力員 報告会より

本年度の報告会は、会場を当教育センターに戻し、1月6日(水)の午後より奈良教育大学教授、小柳和喜雄先生を助言者としてお招きし、実施いたしました。

中学校国語部会からは、「説明的文章の読解」というテーマで、大阪教育大学の住田准教授から学んだ教材分析の方法をもとに実践された



報告でした。また、小学校社会科部会からは、これまでに蓄積してきた地域教材をまとめ、どのように授業へ活用するかという内容でした。小学校算数部会からは、「考える力」「コミュニケーション力」等を育てる「課題解決的な授業」に迫るため、子どもの驚き、発見、疑問をうまくいかして実践された報告でした。

中学校社会科部会からは、子どもの関心を高めるため、地図を立体的に見ることができる教材の展示がありました。どれも、熱のこもった内容ばかりでした。

そのあと、小柳先生から助言・講評いただきました。

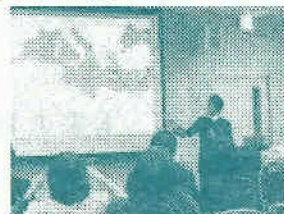
小柳先生からは、基調講演「子どもたちをいかに授業のあり方」



において3つのポイントを教えていただきました。

①子ども理解ができている。 ②教科内容・伝えたいものがはっきりしている ③学習を促す方法・環境が豊かであるという3つです。この3要素をもとに、各教科が報告されたことをその場でまとめ、ご講評いただきました。

非常にわかりやすいお話で、あっという間の3時間でした。



とよなか「学び」プロジェクト研修

コミュニケーション力の再生

～演劇の力を授業に取り入れてみよう～

2月4日(木) 14:30～16:30

於 豊中市教育センター



講師：脚本家・演出家・俳優

れんぎょう
蓮行 先生

<研修概要>

夏期教職員研修会の続編。

「コミュニケーション力の再生」実践編です。

普段はコミュニケーションをとりにくい子どもたちも、「役」になりきることで、語るができるようになる。こうした演劇の力を授業にどう取り入れるのか、授業づくりに役立つ内容が学べます。

申込期限を過ぎていますが、もう少しご参加いただけるようお待ちしております！

サイエンスクラブフェスティバル

市内中学校、近隣高校・大学などの科学系クラブが集まり、実演や展示・体験コーナーを作ります。アイデア溢れる内容は、科学実験のヒントにもなるのでは？子どもたちに案内していますが、先生方もよろしければご来場お待ちしております。

- ◆とき◆ 1月30日(土) 11時30分~16時
- ◆ところ◆ 豊中市教育センター(蛍池駅西側 ルシオーレビル6階)
- ◆出展の内容(予定)◆
 - 豊中三中理科部 …掃除機を利用したホバークラフトや電気回路のイライラ棒など
 - 豊中四中自然科学部 …光の万華鏡づくり
 - 府立高専ろぼっと倶楽部 …NHK ロボコンに出場した「大阪おばちゃん」型ロボットの実演など
 - 北野高校化学研究部 …炎色反応や振動反応、銀鏡反応などの実験演示
 - 園芸高校バイオ研究部 …「植物バイオで発芽の観察に挑戦しよう」
 - 桜塚高校科学部 …身近な食品を使って電池を作る実演
 - 箕面高校エレクトロニクス研究部…部員が作ったコンピュータゲームを体験
 - 大阪大学サイエンスクラブ…「立体だまし絵の世界」展示
 - 夢工房 …「火を噴くロケットを飛ばそう」 など

大阪府教育研究所連盟

第19回 研究発表大会について(案内)

2月24日(水) 13:50~16:30

大阪府教育センター別館5階 第11・12研修室

大阪府の教育の向上・発展と、学校との交流・連携および加盟機関相互の交流と活性化を図ることをねらいとして実施しているものです。先生方のご参加を心よりお待ちしております。

1 部会報告

・教育相談部会「気になる子どもへの支援~連携~」
報告者：泉大津市教育支援センター研究員 藤本 徹

・共同研究部会「コミュニケーション能力について」
~よりよい人間関係をめざして~
報告者：和泉市立教育研究所 指導主事 竹中 克治

2 特別講演 「子どもの力を信じて伸ばす」

講師：JT生命誌研究館長

中村 桂子



ほんとうに大切なこと・・・

先日、あるテレビ番組でアフリカに井戸を掘り起こす技術を伝えた日本人についての紹介がされていました。その日本人は深刻な水問題に危機感を感じてすぐに現地に行き、まず一つの井戸を作って帰国したそうです。しかし、そのあとも感染症は増え続け、根本的な問題解決には結びつかないことに落胆したそうですが、そのときにアフリカのあることわざを耳にして考え方が変わったそうです。そのことわざは「飢えている友だちがいれば魚を与えるのではなく、魚の採り方を教えてあげなさい」というものです。この言葉を聞き、その日本人は大切なことに気がいたと言います。いくら立派な井戸を作っても、作り方を現地の人に教えなければ修理の仕方でも井戸を増やすこともできないのです。

教育相談に訪れる保護者の方から寄せられる質問に「どうすればいいですか?」「何かいい方法がありませんか?」というものがあります。私たち相談員は緊迫した表情の保護者を前にしてなんとかいい方法を提示したいと思いながら耳を傾けます。しかし、いくら良いと思われる方法があったとしてもそれがその子に適切かどうかはわかりませんし、実践できるだけの環境が整っているとも限りません。また、適切で実践しやすいものであったとしても、また別の問題が生じたときはどうでしょう。そのときはまた、担当者が頭をひねることになるのでしょうか。それではアフリカの水問題同様、根本的な解決には結びつきません。

そこで、私は保護者の話を聴く際には解決方法を提示する一されるという関係を強めすぎないように心がけています。方法の提示をするときには必ず「こんな方法もありますが、お子さんに合いそうですか?」と聞いています。その場で合いにくいということがわかればすぐに考え直すことができますし、合うところと合わないところがある場合は話し合っていくうちに、解決の糸口が見つかることもあります。また、以前に成功した方法がある場合にはそれを応用することで、別に思っていた問題にも対処できることもあります。

ゆっくり、じっくりと時間をかけながら相談するなかで、保護者自身に解決方法のコツをつかんでもらえるようになることを目指して相談活動を続けています。(吉川)

